

いつでも勉強だけはちゃんとしときや

盛川 仁



私が防災研究所での学生生活を中途半端に終わらせて吉田の土岐研の助手として着任したのは、まだ兵庫県南部地震の混乱が続く 1995 年 4 月でした。当時、土岐研のスタッフには土岐先生以下、田村先生(当時、助教授)、澤田先生(当時、助手)がおられて今から思い出しても実に濃い研究室でした。私は着任前からいろいろな意味でドキドキしながら、吉田における最初の一步を踏み出しました。先生方には時に優しく、時に厳しく指導をしていただき、吉田にいた 4 年間は私にとってとても重要な時期となりました。

田村先生は私が着任してから 1 年ほどで教授に昇任されて赤レンガへ移られましたので、田村先生と同じ研究室で一緒させていただいたのはごく短い期間でした。しかし、その間に先生には単に勉強のことだけではなく公私にわたって実に様々なことを教えていただきました。その経験はとても他では得がたいものであったと感謝しています。

田村先生は自己紹介をされるときにしばしば、「田村です。趣味は勉強です。」とおっしゃっていました。趣味が勉強ってどういう意味だろう、と趣味と道楽は同義だと信じて疑っていない私には随分不思議な感じがしたものです。しかし、あるとき、たぶん、KAIST との合同セミナーで韓国へ行ったときだったと思いますが、ホテルの部屋代が惜しくて田村先生にお願いをして部屋をシェアしていただいたのですが、そのときに「趣味が勉強」とおっしゃる意味がちょっとわかったような気がしました。

ホテルの部屋で夜になってさあ寝ようという段になって、先生はちょっと本を読んでから寝るから先に休んでいてね、とおっしゃるので私は早々にベッドにもぐりこんで寝てしまいました。朝になってふと気がつくと、まだ先生は同じ椅子で昨晚と同じ姿勢のまま本を読んでおられます。寝ぼけている私に「今日は学部生向けの微積分の教科書を読んだけど、まだまだいろんな新しい発見があるもんだねえ。」とおっしゃって至極ご機嫌の様子でした。もともと数学がとても得意の田村先生が今更のように学部生向けの微積分の教科書を読んでいったいどんな発見をするのでしょうか。徹夜をしてまで基本的な教科書を読んで新しい発見に子供のように喜んでいなんて、なるほど、これはもう立派な道楽以外の何者でもない、と妙に納得をしました。その一方で、先生の勉強に対するひたむきさに感銘を受けるとともに、自らの日ごろの怠惰を深く恥じた次第です。

その後、私は他大学へ異動し、田村先生にお目にかかることも少なくなってしまうました。それでも、何かの機会でご挨拶することがあると最初の一言はいつも「ちゃんと勉強してるか？」でした。そして別れ際は必ず、あの笑顔で「いつでも勉強だけはちゃんとしときや」とお声をかけていただきました。私が怠惰であることをよくご存知だったのでしよう。私は残念なことに勉強が趣味ではありませんので、田村先生のような勉強の仕方はとても真似できません。しかし、韓国での一件があったために先生の言葉は単なるとおりの一遍の挨拶ではなく、私にとっては何よりも深く、重いものでした。

つまらぬことに没頭してすぐに勉強がお留守になってしまう私は田村先生の言葉を思い出しては反省し、正気を取り戻す努力をしています。あの笑顔が見られないことはとても辛いことです。でも私の中には表題の言葉とともに田村先生は永遠に在ると思っています。